

代表質問（25/9/3 稿、答弁込み）

日本共産党 福田雅彦

3. 市西部地区に誘導すべき医療機能について

この5月に「市原市地域医療推進ビジョン」が示されました。

その第2章市原保健医療圏の現状の中に、「帝京大学ちば総合医療センター移転の影響」として、

「車両15分搬送圏域の状況を見ると、帝京大学ちば総合医療センター移転により姉崎・有秋地区に救急搬送の空白地帯が生じることが懸念される」として、センター移転前後のプロット図が示されています。

その現状を受けた形で、第5章市西部地区に誘導すべき医療機能の中には、「市西部地区に望まれる病院等の機能と病床数」として、5つの項目が示されています。

その一つの項目、「救急医療について」では、

誘致すべき病院等は「市原市二次救急輪番に参加すること」が望ましい。とされています。

このビジョンに先立つ3月に発表された

「市原市西部地区への病院等開設にかかるパートナー事業者候補者募集要項」では、

期待する医療機能として、「市原市二次救急輪番に参加すること」とあります。

この7月のパートナー事業者の候補者の選定のニュースリリースでは、救急対応として、「一次救急に対応(二次救急受け入れは検討中)」とあります。

質問

今回のパートナー事業者の候補者選定を受けて、市西部地区に誘導すべき医療機能としての救急医療について見解を伺います。

<答弁>

市西部地区に誘導すべき医療機能について、お答えをいたします。

市西部地区への病院等開設にかかるパートナー事業者候補者の公募にあたりましては、誘致する病院等の定義を「病床を有する病院または診療所」とし、さらに、期待する医療機能として、「回復期・慢性期の両方またはいずれかの病床を確保すること」、「複数の外来診療科目を有すること」、「在宅診療を行うこと」、「市原市二次救急輪番に参加すること」の4項目を示したところであります。

医療法人社団寿光会から示されました、「(仮称) 姉崎のぞみ病院」の事業計画では、病床は回復期と慢性期で198床を整備、外来診療科目は内科・整形外科・リハビリテーション科の3科目を実施、在宅診療は訪問リハビリテーションを実施するとしております。

ご質問の救急対応につきましては、病院開設時は一次救急体制として、休日・夜間を含め、高齢者救急への対応や、市内の救急拠点病院の後方支援の役割を果たすとしており、二次救急への対応については、まずは一次救急と外来診療の実績を重ね、地域の既存の医療機関との連携を深める中で、引き続き検討することとしております。

市といたしましては、こうした計画内容を総合的に判断し、医療法人社団寿光会をパートナー事業者候補者として選定したところであります。

今後は、新たな病院整備が市原保健医療圏全体の医療提供体制の最適化につながるよう、パートナー事業者候補者をはじめ、医師会等、地域の医療関係者と連携して取り組んでまいります。

<以上答弁>

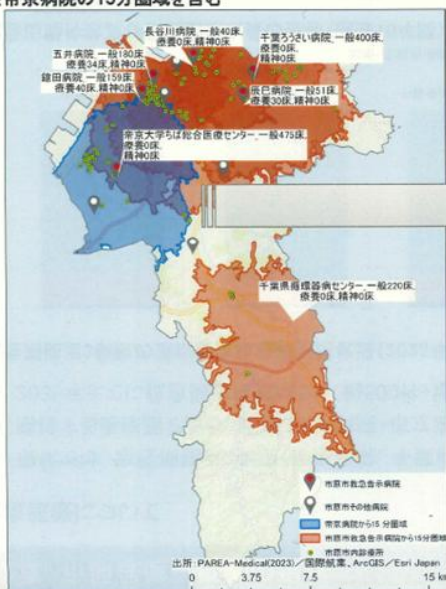
市原市地域医療推進ビジョンに掲げられた市西部地区に誘導すべき医療機能が実現されることを要望します。

第2章 市原保健医療圏の現状

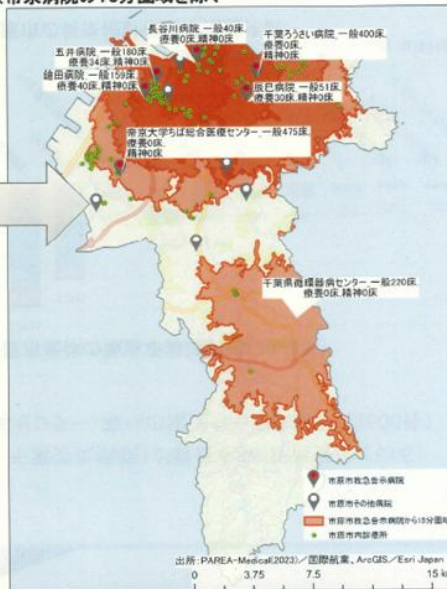
帝京病院移転による影響について

- 市原市の特徴として、人口や医療施設が北部に集中していることが挙げられる。
- 救急告示病院の車両15分搬送圏域(千葉県の救急搬送における、現場出発から病院収容までの平均時間)の状況を見ると、帝京病院移転により姉崎・有秋地区に救急搬送の空白地帯が生じることが懸念される。

◆ 市原市の救急告示病院の車両15分圏域を示すプロット図 ※帝京病院の15分圏域を含む



◆ 市原市の救急告示病院の車両15分圏域を示すプロット図 ※帝京病院の15分圏域を除く



第5章 市西部地区に誘導すべき医療機能

市西部地区に望まれる病院等の機能と病床数

【病床機能について】

- 市原保健医療圏では急性期病床が充足しており、帝京病院移転後も帝京・労災等で急性期患者の受け入れは可能
- 一方、回復期病床及び慢性期病床については不足している状況(病床機能報告では回復期・慢性期の合計で414床不足、定量的基準による推計では計112床不足)
- 市西部及び南部地区において、帝京病院の移転後も入院が必要となる回復期の患者は46人存在すると推計
- 市原保健医療圏全体では、今後も高齢化の進展に伴い回復期・慢性期の医療需要は増加する見込み

➤ 以上のことから、誘致すべき病院等の病床機能は「**回復期・慢性期を中心とした病床構成**」が望ましい

【病床数について】

- 市西部・南部地区において、帝京病院の移転後も入院が必要となる患者は1日当たり46人程度存在すると推計(再掲)
- 帝京病院の実績を踏まえると、後継病院には幅広く市内外から入院することも想定される(急性期を含み200~230床)
- 病床機能報告及び県推計によれば、回復期・慢性期の病床は118床~414床の範囲で不足(再掲)
- 一方、新たに配分可能な病床数(基準病床数-既存病床数)は305床
- 当面は医療需要が増大するが将来は減少する見込みであり、医療人材の確保も困難であること、さらに建築物価の高騰を踏まえると、過大な病床整備は好ましくない

➤ 以上のことから、誘致すべき病院等の病床数は「**60床~230床の範囲**」が望ましい

【救急医療について】

- 市原市における過去10年間の救急出動件数及び救急搬送人員は増加傾向
- 現状では、急性期拠点3病院(帝京病院、千葉県循環器病センター、千葉労災病院)の救急患者のうち3割程度が軽症患者
- 小児・周産期救急は千葉大学、千葉市立海浜病院、千葉県こども病院と連携して対応
- 2035年までに救急搬送件数は5%(約500件)増加が見込まれる。

➤ 以上のことから、誘致すべき病院等は「**市原市二次救急輪番に参加すること**」が望ましい

この要項は、本市西部地区への病院等開設にかかるパートナー事業者の候補者を公募方式により選定するため、必要な事項を定めるものである。

【公募の背景】

令和7年3月 市原市

令和5年12月、帝京大学ちば総合医療センター（以下、「帝京病院」）が現在の姉崎地区からちはら台地区に移転する方針が示された。市では、帝京病院の移転に伴い、「市西部地区が総合病院の空白地帯になること」「市内の救急医療体制の偏在が見込まれること」等の課題認識を持っている。このため、令和6年、病床整備の権限を持つ千葉県に対し、二次救急を担うことを想定した新たな病院の整備が可能となるよう要望書を提出した。

令和5年度に実施した「地域医療調査」および今年度策定を進めている「地域医療推進ビジョン」において、帝京病院移転後の市西部地区に一定の医療ニーズ（入院・外来・救急等）が存在するとの調査結果を得た。これらの背景から、市西部地区への病院等誘致に取り組んでいる（3）期待する医療機能

- ①. 回復期・慢性期の両方またはいずれかの病床を確保すること
- ②. 市原市二次救急輪番に参加すること
- ③. 複数の外来診療科目を有すること（内科、外科、整形外科等）
- ④. 在宅診療を行うこと（訪問診療、訪問リハ等）

PRESS RELEASE

配信日：2025.7.1



市原市
ICHIHARA CITY

問合せ先
保健福祉部
保健福祉課
TEL 0436-23-9768

市原市西部地区への病院等開設にかかるパートナー事業者の候補者を選定

1 パートナー事業者の候補者

法人名	医療法人社団 寿光会 ^{じゅうこうかい} （いすみ市岬町和泉 330-1）
代表者	理事長 作田 美緒子
設立年月日	平成 11 年 3 月 29 日
従業員数	全職員数：1,872 名（常勤・非常勤含む） ※令和 7 年 3 月現在
医療機関の運営実績	岬病院（いすみ市・198 床）、栗源病院（香取市・165 床）、 松戸牧の原病院（松戸市・180 床）
その他	千葉県を中心に介護老人保健施設 8 施設、介護付き有料老人ホーム 3 施設、 サービス付き高齢者向け住宅 1 施設、グループホーム 7 施設などを運営

2 新病院の事業計画

施設名	（仮称）姉崎のぞみ病院
計画地	市原市姉崎地区（姉崎公園敷地内）
施設計画	鉄骨造 3 階建て、建築面積 2,500 m ² 、延床面積 6,700 m ² 、駐車場 203 台
病床数及び機能	療養病床 198 床
救急対応	一次救急に対応（二次救急受け入れは検討中）
外来診療	内科、整形外科、リハビリテーション科
在宅診療	訪問リハビリテーション
開院予定	令和 10 年 12 月